大阪・西ノ辻遺跡(1)

1 所在地　大阪府東大阪市西石切町
2 調査期間　一九八四年(昭59)三月～一九八五年二月
3 発掘機関　大阪府教育委員会
4 調査担当者　西口陽一・宮崎泰史
5 遺跡の種類　集落跡
6 遺跡の年代　旧石器時代～室町時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西ノ辻遺跡は、生駒山西麓に位置する中位段丘上の旧石器時代以来の複合遺跡である。一九八〇年より国道三〇八号線拡幅及び東大阪生駒電鉄敷設工事に先立って、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会、㈶東大阪市文化財協会が共同で地区を分割して発掘調査を実施してきている。

(大阪東北部)

木簡が出土した遺構は、いずれも井戸である。(1)の木簡は、径三m、深さ四mの円形素掘りの井戸中から他の多くの遺物と共に出土した。伴出遺物の主なものは、「□福二年甲午」と線刻された石硯(高島硯)、頁岩製石硯(赤間硯)、鉄鎌、鉄斧、鉄釘、漆器椀、土錘、砥石、オオタニシ・ハマグリ・イシガイの貝殻、ネズミ・カエルの骨、曲物桶等で、瓦器椀や土師皿・羽釜等が鎌倉時代末期のものであることから、井戸の埋った年代が推定できた。

(1)

(2)

(2)の木簡は、径二m、深さ四mの円形素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物に瓦質すり鉢があることから、南北朝時代のものと推定できた。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「奉伽持仏頂尊勝陀羅尼一千遍砌也　元徳二年正月廿七日　(419)×32×5　051

(2) 「〈蘇民将来之子孫宅也」　112×21×3　032

(西口陽一)